

28. 庄内こどもの杜幼稚園保護者への「魅力ある学校づくり構想」の説明会・質疑応答（概要）

○日 時：平成28年（2016年）6月13日（月）13時～

○場 所：庄内神社社務所 2階ホール

質問・意見等	豊中市からの回答
<p>私は島田小校区に住んでいる。この構想でいくと、子どもが野田小に2年間通うことになる。登下校の道のりがかかなり遠くなる。低学年の通学を考えると体力的に心配である。道中の安全性も心配である。このことについてどう考えているのか。</p>	<p>これまでの説明会で、一番多くご質問やご意見をいただくのは、通学路のことです。島田小学校区から野田小学校への通学の最長距離は約2kmと認識しています。スクールバスを出せないか、とのご意見をいただくこともあります。文部科学省は小学校の通学区域の登校距離の目安を4km以内と示しています。能勢町でこの春から開校した学校では3km以上離れていればスクールバスを利用可、という規定を定めています。スクールバスにすると、子どもが運動不足になるというご指摘もあります。現在の各学校の通学路については、安全面の検討が定期的になされていますが、学校再編によって新たに通る経路の安全確保が必要となります。現段階ですべての経路の検討はできていませんが、例えば庄内西小学校から千成小学校に通うとなると、阪急の線路を渡る必要があり、どの経路で行くのか、それぞれにどんな課題があるか等、検討しています。まだこの構想案も決定ではないので、具体的に検討できないところもあります。案が決まり、計画も定まれば、具体的に考える時期がきます。その段階で新しい学校の通学路を検討することになるので、その際は具体的な懸念箇所を一緒に考えていただきたいと考えています。</p>
<p>新しい学校では、制服はどうなるのか。小学生も制服を着るようになるのか。</p>	<p>制服についての議論はまだできていません。計画が策定され、新しい学校の中身を具体的に考える段階で検討する内容になります。またその時になったら保護者の皆さんにご意見をいただくことになると考えています。</p>
<p>新しい学校では、中学校も給食になることも検討しているのか。是非給食にしてほしい。</p>	<p>小学校と同じような形式での給食を中学校でも実施するのか、ということは学校給食課が所管しているため、お答えできませんが、ご要望があったことはお伝えしておきます。</p>
<p>跡地の利用はどうなるのか。マンションが建ったり、住宅になったりするのか。</p>	<p>跡地については、地域コミュニティ、防災、地域の活性化等、様々な観点での検討が必要です。もちろん跡地によってはそのような利用をするところもあるかもしれませんが、これは教育委員会だけで考えられるものだけではありません。市長部局と連携して検討していきます。</p>
<p>新しい学校が大規模になったらどうするつもりなのか。</p>	<p>新しい学校の児童生徒数が増えた場合のことを考えると、例えば、跡地を一つ残しておく、ということも考えられます。残した跡地の体育館、運動場は中学校の部活動で活用できる可能性もあります。跡地については今後そのようなことも含めて検討していく必要があります。</p>

<p>小中一貫校になったら、6年生は卒業式をするのか。</p>	<p>先進事例のなかで、卒業式をする事例や卒業式とは別の式（例：立志式、前期課程修了式）をする事例があります。卒業式をする、しないだけでなく、チャイム、体育館やプール等、教育や学校の中身、施設面等について、先進事例も参考にしながら、今後決めていかなければいけません。</p>
<p>案2の件だが、施設が離れているので、逆にこの距離が原因で学校間のギャップや段差が生まれてしまうのではないか。</p>	<p>文部科学省の調査によると、施設一体型の小中一貫校の方が、他の施設形態に比べて小中一貫教育の効果が得やすいとの結果が出ています。施設分離型になると教職員間の打ち合わせの時間や、子どもたちの交流の時間を生み出す必要があり、負担が増えてしまいます。ご指摘のとおり、案2にはデメリットがありますが、施設の敷地としては余裕があるというメリットもあります。</p>
<p>小中一貫校のデメリットの中に、教職員の負担が増えるという話があった。庄内の子どもたちを日々教育している先生方は様々な課題があって大変なのに、小中一貫校にした結果、さらに負担が増えてしまうのは大丈夫なのか。</p>	<p>小中一貫校において、小・中教職員間の打ち合わせや相互の授業研究等、教職員の負担が増えるのは間違いありません。ただ、小中一貫教育の取り組みをすればするほど学習指導面、生活指導面の効果が上がっていくと言われていています。子ども達の学習意欲が上がり、学力も向上し、生活面でも落ち着けば、結果として教師の負担を軽減することになります。小中両方の教職員が良い学校にするためにお互いの良いところを取り入れていくことが大切です。小中一貫校がスタートしたばかりであれば戸惑いもあり、打ち合わせの時間が増え、一時的に負担は増えるかもしれませんが、年月を重ねていけば、負担は減少していくものと考えています。今後、教職員の負担軽減をどのように支援できるのか、教育委員会として考えていくつもりです。</p>
<p>案1、案2のどちらにするのかのアンケートをとらないのか。</p>	<p>今回の説明会は2月の説明会の内容を周知している段階です。いずれは案1、案2のどちらかに絞っていかねばなりません。これについてはこれまでの説明会でいただいたご意見、ご感想、ご質問を参考にし、計画案として教育委員会事務局で具体的にお示しします。お示した計画については意見公募手続き（パブリックコメント）を行う予定です。教育委員会が決定し、実現に向けて市議会の承認が必要になります。ご意見、ご質問等はいつでも受け付けていますので、お気軽に連絡ください。</p>